
さっき作った世界

大夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さつき作った世界

【Nコード】

N1281W

【作者名】

大夢

【あらすじ】

目が覚めたら目の前が真っ暗

神に死んだと言われ転生させてやると言い

勝手に神が作った世界に転生……した主人公ががんばる（きっと）

お話

主人公はどの作品も名前は同じです

プロローグ

俺はゆっくり目を開けた

そこは知らない天井……でわなく闇
起き上がってみると何もない先が見えないただの暗闇

「ここは何処だ？」

『ここは無だよーん』

突然どこからともなく声が聞こえる

「誰？」

俺は声に聞いてみた

『神だよーん』

だよーんってなんだよ、くそうぜえ

『これは口癖だよーん』

「何故俺の思っていることを!？」

『顔に出てたんだよーん』

「心をよんだとかとかじゃないの？神でしょ？」

よめねーのかよ。嘘つかれた？

『とりあえず話を変えるよーん』

あ、話変えた

『君死んだよーん』

「かるっ！言い方かる！！俺の人生に意味なかったぐらいのかるさ
」

『君には違う世界でもう一度生きてもらうよーん』

これは二次小説によくある転生、どこのアニメの世界に行くんだ俺？

「違う世界って？」

わくわくわくわく

『さっき作った世界だよーん』

……………さっき？まじ？

目が点になる俺

「まじ？」

『まじだよーん』

マジかマジかまじなのか、アニメの世界で原作ブレイクしたかった

のに

そんなことを考えていると神（自称）は手を振っている

『いってらっしゃーい』

「え？マジ？」

そのまま俺の意識は途切れた

第一話に行きたかった（前書き）

タイトルどおり1話に行きたかったけど行けなかったと言った感じのお話

第一話に行きたかった

ゆっくり目を開けたそこは知らない天井……………でわなく闇

まで、これさっきもあつたよな

『ごめーん、言い忘れてたよーん』

「忘れるなよ！！俺意識とんだよね！？」

『欲しい力ある？』

いきなり！！！！てかまた誤魔化された

「力？モンスターとかいんのあんたが作った世界って」

疑問をそのまま神（自称）に聞いてみる

『いるよーんもうじゃんじゃんいるよーん』

いるのかよ、そんなところ行くところだったのか俺

『だから、何でも欲しい力あげるよ』

「じゃあ、何でもできる人、戦闘力はチート並」

『ええ〜』

「できないんかい！！」

『めんどくさいんだもーん』

マジ？

『そんなことを頼まれてもできないよーん』

「お前が言ったんだろ！！」

できないお前にびっくりなんだけど俺」

とんでもないことを言う神

『しょうがないなあ、特別だよーん？』

特別も何もお前が言ったんだろ、自分の言葉に責任持とうぜ

『ここでの記憶は気が向いたら戻してあげるよーん』

「じゃあ、3歳で戻るようにして」

『わがままだなあ？』

口調が変わりやがった

「もういい、お願いだかな、やっとけよ命令だからなじゃ行くから」

そして今度こそ意識がそこで途切れた

第一話に行きたかった（後書き）

次は1話です

第一話（前書き）

今度こそ第一話

第一話

目が覚めると俺は立っていた

暑い焼けるように熱い

何故？

「あっ、燃えてる……」

神様ああああああああああ！！

どうしてくれんの！？

目覚めてすぐ殺すきか？お前が作った世界だろどうなってるかぐらい説明しろよ

「とりあえず水、火消さないと転生して一分も経たないうちに死ぬなんていやだぞ！！」

水がなーい！！

あっ、でもよく考えると水が無くても、あっても死ぬんじゃないやねえ？

そんな結果にたどり着いた

とりあえず直立不動の俺は、窓があったのでおもいきり窓に向かってダイブ

バリーンガシャーン

「思ったよりたけええええええええええ！？てか下海かよおおお
 おおおおおおおお！」

バ
シ
ャ
ー
ン

ブクブクブクブク

早く陸に上がらなければ今度はさっき願った水で死ぬ

やつと陸が疲れたぞ

「*Yes, yes, yes.*」

やつとその事を考える俺神様が言っていたことが本当ならここは神が作った世界になる

あれ？俺の最強の戦闘力は？それくらいの戦闘力があるなら窓から飛ぶことなかったんじゃない？

火の中走ればよかった

とりあえずそれは置いて何も覚えてない俺って転生者だよね？
普通は産まれた所から記憶があるはず

まさか神が意識（主人格）の覚醒を操作したのか？きつとそうだろうに違いはない

もうこの事は置いておこう

「だからここどこよ？人ぐらいいたっていいじゃん！」

そんなことを叫ぶ……するとガサガサ音が聴こえる
とっさに俺は身構える

何でこんな構えしってんだろう

そんなことを考えてしまう

ガサガサガサガサ

音が近くなってくる、手に力が入る

ガサッ

という音がして何かが出てきた

第三話（前書き）

更新がダイブ遅れてすみません
次はいつになるのやら

第三話

ガサガサ

ものおと

草むらから

何がくんの!!

『神だよーん』

「またお前かぁー!?!
しかし何故に黒猫?」

そうなんだ、出てきたのは黒猫しかも喋ってるし神って言うてるし

「今度は何? あ、後記憶」

『記憶は頼まれたとうり3歳で戻したよーん』

「そんなことを言ったけ? ……あー、言ったね。俺忘れっぽいんだよね。で? 用は?」

『用事は火事の原因と君の戦闘力の説明だよーん』

こいつはいつも軽く言ってくれるなあ。火事で死にそうになったんだよ俺

出してなにかをいい始めた

五分後

『うううううむ』

十分後

『ぶつぶつ』

一時間後

『無理だったよーん』

一時間も待たせて無理とは、時間の無駄だったな

「何故？」

『神でもそれは治せなかったんだよーん』

まじかよ………

『神にも階級があるんだよーん』

「で、お前の階級は？」

『平社員だよーん』

「どこの会社だよ!？」

『そんなことをどうでもいい。それより火事の事は面白かったとはいえ悪かったな、お詫びにあそこ（お前の燃えた）の家に日本刀を置いた武器として使うがいい。それとも一つ………死なないようにがんばるんだよーん』

口調が変わったと思ったら最後でぶち壊し

「もういい。帰れ、そして俺は去るといふか日本刀取りに行くじゃ
っ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1281w/>

さっき作った世界

2011年10月9日01時50分発行